広報かがみの 9
2020年9月号 第187号 毎月1日発行

シリーズ 第124回

森原神社の絵馬

森原神社の絵馬（町指定有形民俗文化財・薪森原）は、縦九四㎝、横一七七㎝の大きなもので、伊勢参詣の風景を描いたものと言われています。一一人の一行が荷物を担いだ従者を連れて歩いている様子を描き、左の鳥居や背景に見える社殿の一部と思われる屋根の千木が伊勢神宮であることを物語っています。判読できる文字から、明治四年（一八七一）二月の年号が読み取れます。

江戸時代の社会は、庶民が自由に旅をすることが制限されていました。しかし、神社仏閣の参詣は例外的に認められていたため、人々は伊勢詣りや金毘羅参り、大山詣りなどにかこつけて、物見遊山をしながら道中を楽しんでいました。特に伊勢参詣は一大ブームになった時期もあり、薪森原で戦前まで盛んに行われていた人形芝居の起源も、伊勢参詣の帰りに大阪で見た文楽に魅せられて始めたという説もありますので、各地の名所を堪能していたことがうかがわれます。

しかし、信仰目的の旅行は許可されたとはいえ、相当な日数を要する伊勢までの旅費は、庶民にとってはかなりの高額だったため、人々は「伊勢講」という組織を作っていました。伊勢講は神社の氏子などで構成され、構成員は定期的に出し合ったお金を積み立てて何人分かの旅費を作り、くじ引きなどで選ばれた者が農閑期に伊勢参詣に行くことができます。くじに当たった者は次回からはくじを引く権利を失うため、構成員はいつかはくじに当たるような仕組みになっています。

森原神社は、祭神が伊勢神宮の祭神・天照大御神の子である「天穂日命」であったため、氏子の人々は伊勢講を組織し、伊勢参詣を行っていたようです。この絵馬は、この年に伊勢講によって参詣をした者達が無事に帰って来たことを感謝し、自分たちの旅姿を絵馬にして森原神社に奉納したものと思われます。森原神社には、この他にも石灯篭や石階段など、伊勢参詣から帰った人々が奉納したものが残されています。

絵馬の人物の描写を見ると、皆着物の裾をまくり足には脚絆をつけ、歩きやすい格好にしています。頭には笠をかぶり、羽織を着ているのは、農閑期の寒い時期に旅した様子がわかります。腰には刀を差していますが、これは「道中差」という武士の刀よりも短い刀で、護身用として武士以外の人々が旅をする際に差していたものです。また、笠で見えにくいですが頭には髷を結っているようです。

一見、ごく普通の庶民の旅姿ですが、この絵馬が奉納されるわずか二か月前の明治三年一二月に、明治政府により庶民の帯刀が禁止されていますので、この時の参詣はまさにその直前に行われ、こうした江戸時代以来の旅姿の最後の光景を留めていることになります。

この絵馬が奉納された後、明治四年七月には廃藩置県、八月には「髷を結わなくても良い」「華族（公家）・士族が刀を差さなくても良い」といういわゆる散髪脱刀令が布告されます。森原神社の絵馬は、作者や参拝者の名前などは判読できませんが、こうした時代の大きな変革期における庶民の習俗を描いた貴重な歴史資料といえるでしょう。

森原神社

森原神社の絵馬

伊勢参詣者が奉納した石灯篭
（明治12年3月）

参考資料：『鏡野町の文化財』『鏡野町の石造物』

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/